

科目ナンバリング		G-LAS00 80018 LJ44					
授業科目名 <英訳>	研究開発型企業経営論 Management of Deep-tech Startups			担当者所属 職名・氏名	成長戦略本部 特定准教授 松行 輝昌		
群	大学院共通科目群		分野(分類)	社会適合		使用言語	日本語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・ 後期集中		曜時限	集中 2月5日 2, 3, 4, 5限、2 月19日 4, 5限、3月5 日 4, 5限	配当学年	大学院生	対象学生 全学向
[授業の概要・目的]							
<p>イノベーションの実現には、新しいアイデアが普及し、人々の生活を変え、経済的な価値を生み出すことが不可欠である。しかし、科学的発見や発明だけでは、イノベーションは達成されない。その実現を支える重要な存在の一つが、ディープテック研究開発型スタートアップ企業(最先端の技術を活用し、新たな市場を開拓することを目指す研究開発型企業)である。</p> <p>このような研究開発型企業が社会実装を進める過程においては、(1)研究から製品開発のプロセスにおける「魔の川」、(2)製品開発から事業化のプロセスにおける「死の谷」、(3)事業化から市場・産業化のプロセスにおける「ダーウィンの海」、と呼ばれる一般的な事業化にあたり遭遇する難所が、特に厳しく立ちちはだかる。従って、本授業では特に企業経営の観点から、これらの難所を予め知り、それらの課題を想定してその解決についてケーススタディ的に学ぶことを目的とする。</p> <p>また、研究開発型企業が直面する課題の一つとして、基礎研究の一部を担うようになってきている点がある。このため、基礎研究と資本市場との連結を可能とする莫大な研究開発資金を獲得する必要があり、研究開発型企業が担うべき役割・業務は日々拡大している。大学は基礎研究の推進を担っているが、この様な背景の下、革新的技術の創出と繋がっているとの意識とその昂揚が社会から求められている。</p> <p>そこで、本授業では、京都大学の先端研究や技術成果を題材に、学際的な学生チームと研究者が協働して「技術の社会実装」を探求し俯瞰する。学生自身が主体となり、研究者と共に技術の社会的価値や事業化の可能性を考える実践型プログラムを通じて、技術の社会実装のブレークスルーの起きる瞬間の体感や、その困難さを体験することを通じ、研究開発型企業が社会で果たすべき役割や求められる活動について理解を深める。</p>							
[到達目標]							
<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果や技術シーズを社会実装に結びつける思考プロセスを理解できる。 ・研究成果や技術シーズを社会実装に結びつける思考プロセスを理解できている。 ・研究者を含む異分野チームで協働する過程で、より柔軟なチームワークやコミュニケーションを身に着ける ・自分の専門性を越えた視点で技術を理解できている。 							
[授業計画と内容]							
<p>本授業は「講義+実践+討議」の演習形式で行う。具体的には、授業内でチームを組成の上、授業内外でグループワークを行いながら技術シーズの事業化アイデアや社会実装プランを策定し発表する。3日間の集中講義の形を取るが、参加者には、集中講義日の間の期間でチーム討議・技術の潜在顧客へのインタビューやアンケート等、実地活動を行うことを前提とする</p>							
----- 研究開発型企業経営論(2)へ続く -----							

研究開発型企業経営論(2)

Day 1 (2月5日 2, 3, 4, 5限) (技術理解とチーム組成)

- ・技術商業化・社会実装の基礎講義
- ・技術提供者(教員・研究者)による技術紹介(プレゼンテーション)
- ・チーム編成(学生と研究者のマッチング)と活動方針・計画策定

Day 2 (2月19日 4, 5限) (中間検討と壁打ち)

- ・チームごとの中間発表・質疑応答
- ・グループワーク(活動計画の更新・発表内容討議)

Day 3 (3月5日 4, 5限) (最終発表とフィードバック)

- ・チームによる最終発表(事業化アイデア・社会実装プラン)
- ・教員からの総合フィードバック・振り返りディスカッション

<授業の進め方>

講義とグループワークにより進める。

本授業は対面で実施する。

【履修要件】

(演習のため、受講者はすべての授業への出席を前提とする。)

【成績評価の方法・観点】

- ・授業への出席、チームワーク・実地活動への積極的参加(50%)
- ・中間発表・最終発表の内容(50%)

【教科書】

必要に応じて講義内容に沿った資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)

必要に応じて適宜指示する。

(関連URL)

<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/venture/ims/>(産官学連携本部のアントレプレナーシップ人材育成プログラム、セミナー等の情報、起業相談等については下記URL参照)

【授業外学修(予習・復習)等】

必要に応じて適宜指示する。

【その他(オフィスアワー等)】

必要に応じて適宜指示する。

【主要授業科目(学部・学科名)】